

協議事項（3）

「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和4年度実施計画について

令和4年1月27日付け漁資第741号で千葉県知事から協議依頼のあったこのことについて、栽培漁業・資源管理部会に附議しますので、よろしく御審議願います。

令和4年3月17日  
千葉県水産振興審議会  
会 長 坂本 雅信

漁資第741号  
令和4年1月27日

千葉県水産振興審議会会長 様

千葉県知事 熊谷 俊人  
(公印省略)

「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に  
関する基本計画」における令和4年度実施計画について  
(協議)

このことについて、別添(案)のとおり策定したいので、水産  
動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画  
八により協議します。

水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する  
基本計画における令和4年度実施計画（案）

1 放流計画

対象魚種	3年度計画 (大きさ)	4年度計画 (大きさ)	放流海域	8年度目標放流量 (第8次基本計画)
まだい	1,000千尾 (60 mm)	1,000千尾 (60 mm)	全 県	1,000千尾 (60 mm)
ひらめ	940千尾 (80 mm)	940千尾 (80 mm)	全 県	940千尾 (80 mm)
まこがれい	460千尾 (40 mm)	460千尾 (40 mm)	東 京 湾	460千尾 (40 mm)
あわび	1,600千個 (25 mm)	1,600千個 (25 mm)	全 県	1,600千個 (25 mm)
くるまえび	6,000千尾 (30 mm)	6,000千尾 (30 mm)	東 京 湾	6,000千尾 (30 mm)

## 2 令和4年度 技術開発計画

### ア 種苗生産

対象魚種	実施機関	技術開発上の問題点	主に取り組む課題
まだい	水産総合研究センター	安定生産の維持に向けた疾病対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期飼育におけるワムシ給餌方法及び換水率の検討を行う。</li> </ul>
ひらめ		餌料及び育成環境による体色異常魚の出現防止 ウイルス性等疾病防除による安定生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間育成期間の換水率が黒化率に及ぼす影響について、小規模飼育試験では、高換水率で飼育した場合に黒化が抑えられたことから、中規模(水量 10kL)水槽を用いた検討を行う。(3～6月)</li> <li>・ヒラメアレアオウイルス等の感染有無について親魚及び種苗の検査を実施し、陽性が確認された場合は適切に処分する。</li> </ul>
まこがれい		年内採卵に向けた天然親魚の成熟技術の開発 成長促進技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き東京湾北部の天然成熟親魚を12月中下旬に確保し、年内採卵を実施する。</li> <li>・ホルモン打注による催熟処理について、適正な手法を再検討する。</li> </ul> (R3年度採卵) <ul style="list-style-type: none"> <li>・希釈海水環境下の飼育による稚魚の成長促進効果を確認するため、100L水槽を使用し、100%海水を対照として、75%、50%海水の試験に取り組む。(1～3月)</li> <li>・マコガレイアレアオウイルス等の感染有無について卵・精子及び種苗の検査を実施し、陽性が確認された場合は適切に処分する。</li> </ul>
あわび	(公財)千葉県水産振興公社	付着板飼育における安定的な育成方法の改良 剥離直後と水温上昇期のへい死対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・餌料価値が高く、餌不足が生じにくい付着板作成、付着稚貝の適正密度および分槽・分散の時期等について検討する。</li> <li>・生海藻給餌および配合飼料種類について検討する。</li> <li>・UV殺菌した海水とろ過海水による比較飼育試験を実施する。</li> </ul>
くるまえばい	(公財)千葉県水産振興公社	安定生産及び早期採卵に向けた種苗生産体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内産親エビの使用を優先するとともに、豊洲市場を活用した良質な親エビの確保が可能となる体制を構築する。</li> <li>・防疫対策の徹底を図る。</li> </ul>

はまぐり	水産総合研究センター	着底期以降の稚貝の飼育技術の開発 中間育成技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育作業の省力化（水替え頻度）を検討する。</li> <li>・干潟域において、春季以降に被覆網（沈子ロープ2本+杭固定）による中間育成を継続し、秋冬季に成長した稚貝の密度比較試験を実施する。</li> <li>・春季（3～5月）に内房（小浦）、秋季（11～1月）に大原で水揚げされる体重3kg以上のトラフグを入手し、性成熟が始まる3月末に雌雄判別を行い、親魚購入場所ごと・時期別の雌雄比から、親魚を安定的に確保するための購入場所・時期を選定する。</li> <li>・搾出した卵を確実に人工受精させるための精子保存手法を確認する。搾出した精液を伊勢・三河湾系群種苗生産機関で使用されている組織培養緩衝液、トラフグ用精漿による10倍希釈液、並びに原液を冷蔵し、保存後の継時的な精子の泳動率の変化を比較する。</li> <li>・噛み合い防止に有効な海産クロレラについて、飼育水槽ごとに添加量を変えて、死亡率、成長等を比較し、その効果と有効添加量を検討する。</li> <li>・本県産親魚から得られた受精卵を用いて、20kL水槽で放流サイズ（全長50mm）まで飼育し、生産規模における飼育管理手法を検討する。（4～7月）</li> </ul>
とらふぐ	水産総合研究センター	天然親魚の安定的な確保 良質卵の安定的な確保 良質な種苗の育成	

## イ 放流調査

対象魚種	実施機関	技術開発上の問題点	主に取り組む課題
まだい	水産総合研究センター	資源状況及び放流効果の把握	・市場調査及び放流効果の解析を行う。
ひらめ		資源状況及び放流効果の把握	・市場調査及び放流効果の解析を行う。
まごがらい		尾ひれ鰭条屈曲による放流効果の（回収率）把握 資源生態的知見に基づく放流方法の改良	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場調査により尾ひれ鰭条屈曲を指標とした混入率を調べ、放流効果（回収率）を算出する。</li> <li>・資源状況及び生態（成長、移動、好適な生息環境など）に関する調査を行う。</li> <li>・海域環境（水深、底層水温、貧酸素水塊の分布など）を考慮した放流技術を開発する。</li> </ul>

あわび	水産総合研究センター	一般漁場及び造成漁場（放流漁場）における回収率の把握  造成漁場の適正な管理方法の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場調査により一般漁場及び造成漁場（放流漁場）における回収状況を把握する。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>千倉地区（川口地先・平磯地先）及び勝浦地区（豊浜地先）輪採漁場の餌料環境及び放流種苗の追跡調査を行う。</li> <li>輪採漁場におけるコンクリート平板洗浄効果を検証する。</li> <li>コンクリート平板周辺への転石（コンクリートブロック）設置が放流種苗の生残に与える影響を把握する。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>輪採漁場の口開けにおける助言、指導を実施するとともに、市場調査により混入率等を把握する。</li> <li>勝浦地区においてR元年造成漁場の種苗放流実施に向けた指導・助言を行う。</li> <li>白浜地区において、あまびじョンに基づく新規漁業者受け入れのための指導・助言を行う。</li> <li>漁場毎の現状調査票（地区別カルテ）を作成し、対策を検討する。</li> </ul>
とらふぐ	水産総合研究センター	造成漁場の適正な管理方法の指導  資源状況及び放流効果の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁獲実態と放流効果を把握し、種苗放流による経済効果の検討を行う。</li> </ul>